JEFS-2023-07-13

日本映像民俗学の会
2023年度 第2回 研究会のご案内

前回の研究会は、民族誌映画の黎明期に活躍し、長期にわたる事前調査と参与観察法を実践したロバート・フラハティ(Robert Flaherty)の2作品をとりあげました。今回は、1970年代からアメリカの映像人類学者が、フラハティをはじめとする先人たちの経験を批判的に検討して打出した方法論を考えてみようと企画しました。レオナルド・カマリング(Leonard Kamering)は、2020年にアラスカ大学フェアバンクス校を退職するまでアラスカ大学博物館先住民文化遺産映像センターをベースに作品活動を続けて来ました。彼が同僚のサラ・エルダー(Sarah Elder)と打出した方法論は

① 被写体となる人物、コミュニティと徹底的に話し合って、記録に遺すべきと合意に達した事象のみを記録する。その時取り決めた事項・条件は、文書化しておく。

② 事実をそのまま記録する。ステレオタイプ化したやらせ、あてはめ、再現を排除する。

③ インタビューにおいては、被写体となる人物が日常使っている言語で記録する。その言葉が英語でない場合は、英語の字幕を付ける。英語の方が楽な人に民族語を使う事も強制しない。

④ ナレーションは使わず、インタビューの音声で構成して行く。

といった諸点で、被写体となる人々と映像の作り手との関係性が特に注目されるところです。カマリングは、日本に対する関心も非常に高く、数作品の日本語字幕版を制作しており、日本に長期滞在中に制作した作品もあります。実際に、岡田は次作『沖縄久高島のイラブー』制作に参考にしている手法があり、そうした点も報告したいと考えています。

【日時】 2023年9月2日(土)　　13:00～(12:30開場)

13:00～13:30　代表挨拶(北村皆雄)、企画立案者解説(岡田一男)
13:30～14:10　『捕鯨の時』 1978年　38分
14:10～14:20　『冬の太鼓』 抜粋　6分
14:20～14:30　　≪休憩≫
14:30～16:00　『国の心』 1997年　90分
16:00～16:10　　≪休憩≫
16:10～17:20　ワークショップ(ビデオメッセージ含む)
※17:30～　懇親会予定

【会場】　四谷スポーツスクエア　会議室R　(47席)
〒160-0004　東京都新宿区四谷1-6-4
アクセス:JR「四ツ谷」駅　徒歩約2分
https://yotsuya-sports-square.jp/#access

【資料代】 会員:無料、非会員:500円

【上映作品】『捕鯨の時』 1978年　38分

本作は、ロシア極東、チュコト半島から58km と国境間近のベーリング海峡の島、セントローレンス島ガンベル（2010年の人口681名）のユイット（シベリア・ユピック）との共同作業の一つで、先住民の伝統生業、捕鯨の1970年代半ばの現状と彼らの考えを伝えている。ここでは、海の哺乳類（鯨とセイウチ）が依然として主要な食料源でベーリング海峡を鯨が通過する春の3週間に、伝統的な捕鯨組織と最近導入された技術の組み合わせで漁される。ホッキョククジラの体重は70トンになることもあって、最大10人が乗船する15隻のセイウチ革張りボートが動員される。屋上から双眼鏡で鯨を見つけ、出撃し、獲物は岸に曳航する。そこで、男たちは、解体して、肉を乗組員と島びとに配るまで3日間の作業を追っている。古老による過去の捕鯨についても語られている。

【参考上映作品】『冬の太鼓』 1988年 90分 抜粋 6分

本作は、ベーリング海沿岸ユーコン川の河口デルタにある人里離れた村、エモナック（2010年人口762名）の中央ユピックの伝統的な舞踊、音楽、世界観を探っている。ダンスはかつてユピックの精神的・社会的生活の中心だった。それは古と新、生と死、そして人自身の力と見えない世界の大きな力との架け橋だった。エモナックの古老たちによる隣村との次のポトラッチの準備から、カシム（カスギクまたは男子集会所）での歌と踊りの練習、それぞれの動きの意味を考える。この地域にキリスト教をもたらした宣教師の抑圧にもかかわらず生き残った、ユピック文化の回復力の強さが印象的だ。この作品は、レオナルド・カマリング、サラ・エルダーという二人の作者によるシリーズの最終作である。

【上映作品】『国の心』 1997年　90分

レオナルド・カマリングは、知里真志保門下で、アイヌ研究から出発した音楽民俗学者・教育学者でエスキモーの芸能に造詣が深かった谷本一之(1932-2009)との長い交友関係を持ち、谷本が学長を務めていた北海道教育大学の世話で、北海道南富良野町の金山小学校の校長先生、ヨツモト・シンイチを中心に教師たち、生徒とその父兄たちの一年を、家族で南富良野町に移住して記録した。彼にとっては初めての VTR 撮影だったが、パナソニックから M-II 機器一式の無償提供を受けて取組んだ。また初期 AVID ノンリニア編集機器で丁寧な PC 編集を試みた。アラスカで培った映像作家とコミュニティとの関係構築を日本の地で実践するとどうなるかを見ていただければと思う。

カマリングは、現在もアラスカ州、フェアバンクスで暮らしているが、ノルウェー最北部のトロムソ大学でスカンジナビアの先住民、サミの若者たちを対象とする映像人類学教育の講座を持っている。コロナ禍で中断していた講座を再開して、2023年9月にはトロムソにいると言うことなので、そこから、この会に向けて活動の最新情報を含む、ビデオメッセージを寄せてもらおうと考えている。質問のための事前視聴希望者には上記作品の VimeoURL をお知らせできる。

岡田一男
k-okada@tokyocinema.jp